



Cisco Unified IP Phone オプションの変更

この章では、Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) に接続するために使用できる画面とボタンの機能について説明します。

- [Cisco Unified IP Phone オプションについて](#) (1 ページ)
- [Cisco Unified IP Phone オプションの構成](#) (12 ページ)
- [Cisco Unified IP Phone オプションの設定例](#) (53 ページ)
- [Cisco Unified IP Phone オプションの機能情報](#) (58 ページ)

Cisco Unified IP Phone オプションについて

ディレクトリ エントリのクリア

Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.6 では、Cisco Unified SCCP IP Phone のディスプレイ画面に表示される不在着信、発信、受信通話エントリなど、電話履歴詳細の表示をクリアできます。不在着信、発信、受信通話の電話番号エントリの表示を削除するには、ほとんどの Cisco Unified IP Phone でディレクトリ サービス ボタンを押すか、7931 電話機で回線ボタンをプログラムします。コールディレクトリのクリア機能は、Cisco Unified IP Phone 7960、7961、7970、7971、8961 でサポートされます。

ディレクトリエントリのクリア機能を有効化するには、**exclude** コマンドに電話履歴オプションを追加します。通話履歴情報をクリアするように電話機を構成するには、「[SCPP 電話機の通話履歴詳細のクリア](#) (13 ページ)」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone 7970 向けカスタマイズ背景画像の有効化

Cisco Unified IP Phone 7970 および 7971 では、電話画面の背景イメージのカスタマイズがサポートされています。Cisco Unified IP Phone 7970 または 7971 で、カスタマイズした背景イメージの表示を有効化するには、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_tech_note09186a008062495a.shtmlにあるテクニカルノートの手順に従ってください。

背景イメージのサンプルは、<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/ip-iostsp> の 7970-backgrounds.tar ファイルにあります。

カスタマイズされたボタンレイアウト

Cisco Unified CME 8.5 以降のバージョンでは、ボタンレイアウト機能を使用して、電話機のさまざまなボタンタイプの表示順をカスタマイズできます。ボタンレイアウト機能を使用すると、次のタイプのボタン表示をカスタマイズできます。

- 回線ボタン
- スピードダイヤルボタン
- BLF スピードダイヤルボタン
- 機能ボタン
- サービスの URL ボタン

Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.5 は、**button layout** コマンドを使用して、希望の順番にボタンを並べます。電話機に表示されるすべてのボタンが、ボタンレイアウト設定に従います。**button layout** コマンドでは、電話機の物理的なボタン番号が、**button layout** コマンドの **button-string** パラメータで指定されます。ボタンレイアウト設定で定義されていないボタンは、空白行として表示されます。電話機のボタンレイアウトを構成する前に、回線ボタン、プライバシーボタンを含む機能ボタンおよび URL ボタンを **line button**、**feature button** および **url button** コマンドを使用して個別に構成する必要があります。

回線ボタン

ボタンレイアウト制御機能を使用すると、対応する物理的な回線番号または回線番号の範囲をボタンに読み込むことができます。物理的な回線と関連付けられていない回線ボタンは電話機には表示されません。**button** コマンドを使用して、位置、ボタンのタイプ、電話機のディレクトリ番号を指定して、Cisco Unified SCCP IP Phone のボタンを回線ボタンとしてカスタマイズできます。詳細については、[SCCP 電話機のボタンレイアウトの構成 \(19 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco Unified SIP 電話機の場合、最初の物理的なボタンを有効なディレクトリ番号の回線ボタンにする必要があります。その他ボタンは、**button** コマンドを使い、相対的な位置（位置インデックス）、ボタンの種類、ボタンのディレクトリ番号を指定してカスタマイズできます。詳細については、[SIP 電話機のボタンレイアウトの構成 \(21 ページ\)](#) を参照してください。

スピードダイヤルボタン

speed-dial コマンドを使い、ボタンの位置を指定すると、回線ボタンの前、後ろ、間など、[スピードダイヤル (Speed Dial)] ボタンのヒューマン位置をカスタマイズできます。ボタンレイアウト機能を使用すると、対応する物理的な回線番号または回線番号の範囲をボタンに読み込むことができます。関連付けられた物理的な回線がないボタンは電話機に表示されません。

BLF スピードダイヤルボタン

ボタンレイアウト機能では、**blf-speed-dial** コマンドを使い、ボタンの位置を指定すると、回線ボタンの前、後ろ、間などに、BLF スピードダイヤルボタンを表示できます。BLF スピードダイヤルボタンを設定すると、対応する物理的な回線番号または回線番号の範囲をボタンに読み込むことができます。物理的な回線の関連付けがないボタンは電話機に表示されません。

機能ボタン

現在、プライバシー ボタンは使用できる唯一のボタンで、前述のすべてのボタンの最後に表示されます。PLK 機能を使用すると、電話機の物理的なボタン（回線キー）の電話機能を有効化できます。このボタンレイアウト機能では、**button**、**speed-dial**、**blf-speed-dial**、**feature-button** または **url-button** コマンドを使用してすべての表示ボタンを構成する必要があります。

feature-button が存在する場合、**privacy-button** より **feature-button** が優先されます。回線キーの機能ボタンの構成詳細については、「[Cisco Unified SCCP 回線キーの機能ボタンの構成（29 ページ）](#)」および「[Cisco Unified SIP 電話回線キーの機能ボタンの構成（27 ページ）](#)」を参照してください。



- (注) ボタンレイアウト機能が **ephone** テンプレート モードとログアウト プロファイル（エクステンション モビリティ）モードの両方で設定される場合、ログアウト プロファイルモードでの設定が優先されます。**ephone** モードでのボタンレイアウト設定は、エクステンション モビリティ（EM）のない電話機で優先されます。



- (注) プライバシーボタンは、プライバシーボタンをサポートし、**feature-button** コマンドで機能ボタンが構成されていない電話機の機能ボタンとしてカウントされます。

URL ボタン

ボタンレイアウト機能を使用すると、回線ボタン、BLF スピードダイヤル ボタン、BLF スピードダイヤルボタン、または機能ボタンの前、後、あるいはその間に URL ボタンを表示できます。回線キーの URL ボタンの構成詳細については、「[SCCP 電話回線キーのサービス URL ボタンの構成（25 ページ）](#)」および「[SIP IP 電話回線キーのサービス URL ボタンの構成（23 ページ）](#)」を参照してください。

カスタマイズした電話機のユーザー インターフェイス サービス

Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.5 以降の場合、プログラム可能な回線キー（PLK）の URL ボタン設定を使用して、個々のサービス項目をボタンに割り当てることによって、電話機のユーザーインターフェイスでエクステンションモビリティ、電話アプリケーション、およびシングルナンバーリーチ（SNR）などの個々のサービス項目の可用性をカスタマイズできます。詳細については、[SCCP 電話回線キーのサービス URL ボタンの構成（25 ページ）](#)を参照してください。

電話機のユーザーインターフェイスで EM、MyPhone アプリケーション、およびローカルディレクトリなどのサービスの構成を無効化することによって、個々のサービス項目の可用性を制限し、電話機のユーザーインターフェイスから個々のサービスの表示を除外できます。**ephone**

テンプレートモードで **exclude** コマンドを使用して、エクステンションモビリティ (EM)、電話アプリケーション、およびローカルディレクトリの表示を除外できます。詳細については、[Phone ユーザーインターフェイスのローカルサービスのブロック \(31 ページ\)](#) を参照してください。

ディレクトリ サービスが PLK 設定によって有効になっている場合、PLK 設定は、**ephone** コンフィギュレーションモードまたは **ephone** テンプレート コンフィギュレーションモードでのディレクトリ サービスの除外よりも優先されます。**ephone** モードおよび **ephone** テンプレートモードで設定されたサービスの除外に関係なく、サービスをボタンから利用できます。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.5 以降のバージョンでは、**ephone** または **ephone** テンプレート構成モードで **exclude** コマンドを使用して、EM、My Phone アプリケーション、ローカルディレクトリなどのローカルサービスを Cisco Unified SCCP IP Phone のユーザーインターフェイスから使用できないように除外します。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 9.0 以降のバージョンでは、音声登録プールまたは音声登録テンプレート構成モードで **exclude** コマンドを使用して、これらすべてのローカルサービスを Cisco Unified SIP IP Phone のユーザーインターフェイスから除外します。



(注) Cisco Unified Cisco Mobility Express 9.0 以前のバージョンでは、内部 URL アドレスを使用してローカルディレクトリ サービスを構成する必要があります。

Cisco Unified CME 9.0 以降のバージョンでは、外部 URL アドレスが設定されていない場合、内部 URL アドレスがデフォルトになります。

Cisco Unified IP Phone 7931G 用固定回線機能ボタン

Cisco Unified CME 4.0(2) 以降のバージョンでは、2 種類の固定ボタンレイアウト形式から選択して、Cisco Unified IP Phone 7931G の特定の回線ボタンに機能を割り当て、キーシステム電話機の動作をサポートできます。ボタンセットを選択しなかった場合、機能/回線ボタンの固定セットは定義されません。

Cisco Unified IP Phone 7931G の回線ボタンレイアウトは、ボトムアップ配列です。ボタン 1 が配列の右下にあり、ボタン 24 が配列の左上にあります。

ボタンセット 1 には、事前定義された 2 個の機能ボタンがあります (ボタン 24 がメニュー、ボタン 23 がヘッドセット)。

ボタンセット 2 には、事前定義された 4 個の機能ボタンがあります (ボタン 24 がメニュー、ボタン 23 がヘッドセット、ボタン 22 がディレクトリ、ボタン 21 がメッセージ)。

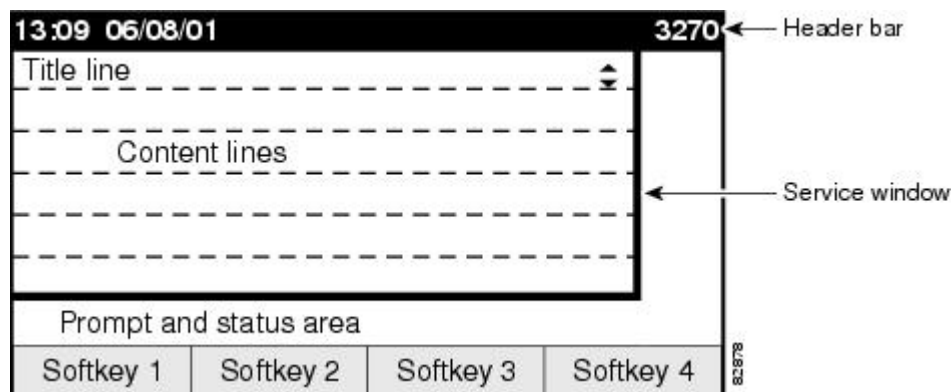
構成については、「[Cisco Unified SCCP IP Phone 7931G 用選択ボタンレイアウト \(17 ページ\)](#)」を参照してください。

ヘッダーバーの表示

IP Phone ディスプレイの最上段の行に表示される IP Phone ヘッダーバーの内容をカスタマイズできます。

通常、Cisco Unified IP Phone の IP Phone ヘッダーバー（最上段の行）は、最初の回線ボタンの横に表示されるテキストを複製したものです。図 1 : Cisco Unified IP Phone のディスプレイ（5 ページ）に、ヘッダーバーを示します。ただし、ヘッダーバーに、内線番号の代わりにユーザ定義可能なメッセージを含めることができます。たとえば、ヘッダーバーを使用して、名前や、電話機の完全な E.164 番号を表示できます。説明を指定しなかった場合、ヘッダーバーには、電話機で最初のボタンの横に表示される内線番号の複製が表示されます。

図 1 : Cisco Unified IP Phone のディスプレイ



電話ラベル

電話ラベルは、Cisco Unified IP Phone の回線ボタンの横に、内線番号の代わりに表示できる設定可能なテキスト文字列です。デフォルトでは、ディレクトリ番号に関連付けられ、電話機に割り当てられている番号が、該当するボタンの横に表示されます。ラベル機能を使用すると、各ディレクトリ番号にわかりやすいテキスト文字列を入力でき、複数の回線を使用する電話機ユーザは、電話番号の代わりにラベルで回線を選択できるため、社内の電話帳を調べる必要がなくなります。構成の詳細については、「[SCCP 電話機でのディレクトリ番号のラベル作成（36 ページ）](#)」または「[SIP 電話機でのディレクトリ番号のラベル作成（37 ページ）](#)」を参照してください。

プログラム可能な電話機のベンダーパラメータ

構成ファイルの vendorConfig セクションには、電話機の起動時に電話機のファームウェアで読み取られ、実装される電話パラメータおよび表示パラメータが含まれます。現在ロードされているファームウェアでサポートされるパラメータだけが使用できます。パラメータの数およびタイプは、ファームウェアのバージョンによって異なります。

構成ファイルをダウンロードする IP Phone は、サポートできるパラメータだけを実装し、設定されている実装できないパラメータは無視します。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7970G に

はバックライトディスプレイがないため、**Backlight** パラメータが設定されていても実装できません。次のテキストで、構成ファイルのエントリの形式を示します。

```
<vendorConfig>  
<parameter-name>parameter-value</parameter-name>  
</vendorConfig>
```

システムレベルの構成情報については、「[すべての SCCP 電話機用ベンダーパラメータの変更 \(44 ページ\)](#)」を参照してください。

各電話機の構成情報については、「[特定の SCCP 電話機用ベンダーパラメータの変更 \(46 ページ\)](#)」を参照してください。

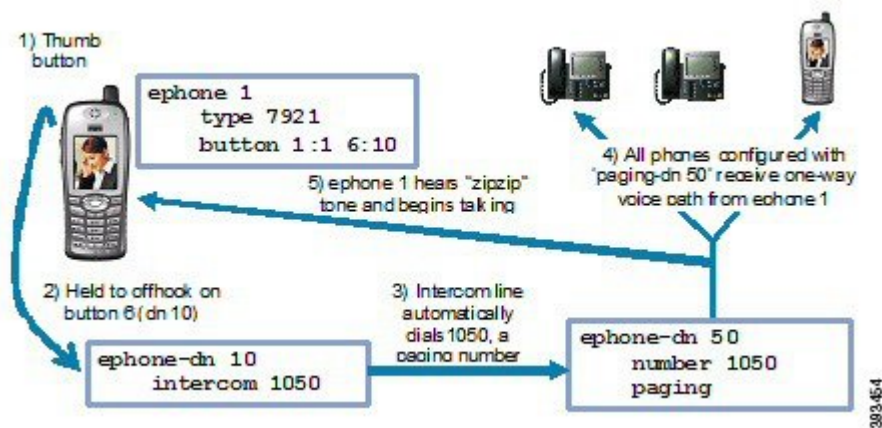
Push-to-Talk

この機能を使用すると、Cisco Unified CME 7.0 以降のバージョンで、機能をサポートする外部サーバを必要とせずに One-Way Push-to-Talk (PTT) を使用できます。PTT は、親指ボタン付きの Cisco Unified Wireless IP Phone 7921 および 7925 で、バージョン 1.0.4 以降のファームウェアでサポートされます。

次の図では、ボタン 1/DN 1 がこの電話機のプライマリ回線に設定されています。ボタン 6/DN 10 が PTT 用に設定され、この電話機の親指ボタンを押すとトリガーされる回線になっています。

- 親指ボタンを押したままにすると、電話機で設定されている DN がオフフックになります。
- 親指ボタンは、ページング番号 (1050) を対象とするインターコム DN を利用します。
- 対象のポケットベルグループ (DN 50) は、ユニキャスト、マルチキャスト、これら両方のどれでもかまいません。
- コールパスを設定する際、ユーザーには「zipzip」音が聞こえます。
- この操作の間、電話機のその他のキーはすべてロックされます。
- 親指ボタンを放すと、通話が終了します。

図 2: PTT のコールフロー



構成情報については、[Cisco Unified SCCP ワイヤレス IP 電話の一方向 Push-to-Talk の構成 \(48 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco Jabber のサポート

Unified Cisco Mobility Express リリース 12.5 以降から、Cisco Jabber がサポートされます (Unified Cisco Mobility Express リリース 8.6 ~ 10.5 でサポートされている Jabber バージョンはサポートが終了しています)。SIP ソフトフォンクライアントは、VoIP over WLAN をサポートします。Unified Cisco Mobility Express は、ソフトフォン SIP クライアントでの 保留、保留解除、通話パーク、コールピックアップなどの補足サービスがサポートされています。



(注) Unified Cisco Mobility Express 8.6 ~ 10.5 でサポートされる Jabber バージョンはサポートを終了しています (EOL)。したがって、Unified Cisco Mobility Express 11.0 から Unified Cisco Mobility Express 12.3 では Cisco Jabber をサポートしていません。Unified Cisco Mobility Express でサポートされている Cisco Jabber バージョンに関する詳細は、[「Cisco Unified Cisco Mobility Express 対応ファームウェア、プラットフォーム、メモリ、および音声製品」](#) を参照してください。

Unified Cisco Mobility Express 12.5 以降では、MAC および Windows (電話専用モード) 用の Cisco Jabber CSF 12.1.0 クライアントがサポートされています。Jabber バージョン 9.0.x はサポートが終了しており、Unified Cisco Mobility Express での Cisco Jabber クライアントサポートに必要な最小バージョンは、Unified Cisco Mobility Express 12.5 になります。

Cisco Jabber の機能サポート

次の機能は、Unified Cisco Mobility Express 12.5 以降のリリースで Cisco Jabber をサポートしています。

- 保留または保留解除

- 転送
- 共有回線
- 混在共有回線
- Call forward — 全員、ビジー、応答なし、未登録
- 直接通話パークピックアップ
- シングル ナンバー リーチ (SNR)
- 音声ハントグループ (シーケンシャル、パラレル)
- ハードウェア会議
- 保留音
- ビデオ

制限事項

次の Unified Cisco Mobility Express は、Cisco Jabber ではサポートされていません。

- 割込み
- cBarge
- ビルトインブリッジ (BIB) 会議
- サイレント
- KPML ダイアル

Cisco Mobility Express での Cisco Jabber クライアントサポート

Cisco Jabber クライアントは、統合されたインスタントメッセージングとプレゼンス機能を備えた SIP ベースのソフトクライアントであり、新しいクライアント サービス フレームワーク 2nd Generation (CSF2G) アーキテクチャを使用します。

CSF は、複数の Cisco PC ベースのクライアントおよびモバイルクライアントによって再利用されるユニファイドコミュニケーションエンジンです。クライアントは、Cisco Unified Cisco Mobility Express の音声登録プールで構成できるデバイス ID 名によって識別されます。Cisco Jabber クライアントを介して Cisco Unified Cisco Mobility Express にログインするユーザーを識別するために、音声登録プールの下でユーザー名とパスワードを構成する必要があります。デバイス検出プロセスは、HTTPS 接続を使用します。したがって、Cisco Unified Cisco Mobility Express でセキュア HTTP を構成する必要があります。

音声登録プールで Cisco Jabber クライアントを構成するために、新しい電話機タイプである「Jabber-CSF-Client」が追加されました。これは、CSF ベースの Cisco Jabber クライアントを構成するために使用できます。Cisco Mobility Express 10.0 では、「Jabber-Win」というタイプを使用して、Cisco Jabber クライアントを構成します。Cisco Mobility Express 10.5 では、このタイ

ブは廃止されるので、新しい「Jabber-CSF-Client」を使用して、Cisco Jabber クライアントを構成する必要があります。

Cisco Jabber CSF クライアントは、完全な UC モード (統合された IM およびプレゼンス サービスを使用) と電話専用モードの2つのモードでプロビジョニングできます。Cisco Jabber CSF デバイスの電話機専用モードもサポートされています。これは、「音声登録グローバル」または「音声登録プール」または「音声登録テンプレート」構成の「電話機モード電話機のみ」オプションで構成できます。

Jabber クライアントが電話機専用モードでインストールされている場合、Cisco Mobility Express で追加の構成は必要ありません。通常の Jabber 構成で十分です。

Windows の電話機モードでの Jabber クライアントのインストールの詳細については、
「<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/jabber-windows/products-installation-guides-list.html>」を参照してください。

Mac の電話機モードでの Jabber クライアントのインストールの詳細については、
「<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/jabber-mac/products-installation-guides-list.html>」を参照してください。

Jabber クライアントがフル UC モードでインストールされていて、Cisco Mobility Express から電話機専用モードを有効にする場合は、構成セクションで説明されているように、「電話モード」構成が必要です。

表 1 : Cisco Jabber クライアントのサポートバージョン (9 ページ) は、Cisco Jabber クライアントサポートのバージョンと、対応する Cisco Mobility Express および Jabber クライアントのバージョンを示しています。

Unified Cisco Mobility Express リリース 12.5 以降 (Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータ上) は、MAC (電話のみ) および Windows (電話のみ) 用の Cisco Jabber CSF クライアント (ソフトフォンモード) バージョン 12.1.0 がサポートされます。

表 1 : Cisco Jabber クライアントのサポートバージョン

Cisco CSF デバイスタイプ	Unified Cisco Mobility Express でサポートされるバージョン	Jabber クライアントバージョン
Cisco Jabber for MAC (電話のみ) および Windows (電話のみ)	10.0	9.1.0
	10.5	9.2.1
	12.5	12.1.0

制限事項

- Cisco Jabber CSF クライアントは、Cisco Unified Cisco Mobility Express でソフトフォンモードのみをサポートします。

- デスクフォンモードはサポートされません。
- 次の Cisco Jabber CSF タイプのデバイスはサポートされていません。
 - Cisco Jabber for iPhone（フル UC モードと電話機専用モードの両方）
 - Cisco Jabber for Android（フル UC モードと電話機専用モードの両方）
 - Cisco Jabber for iPad（フル UC モードと電話機専用モードの両方）

構成情報については、[Cisco Unified Cisco Mobility Express の CSF クライアント向け Cisco Jabber の構成（50 ページ）](#) を参照してください。

構成例については、[Cisco Jabber CSF クライアントの構成例（53 ページ）](#) を参照してください。

システムメッセージの表示

システムメッセージ表示機能を使用して、ディスプレイ対応 IP Phone のディスプレイ ウィンドウの下部に表示されるカスタムテキストまたは表示メッセージを指定できます。カスタムテキストまたはディスプレイメッセージを設定しない場合、デフォルトメッセージの「Cisco Unified Cisco Mobility Express」が表示されます。

テキストメッセージを指定する場合、IP Phone は通常（等幅ではなく）プロポーショナルフォントを使用するため、表示される文字数は不定です。約 30 文字の英数字を表示できる幅があります。

次のいずれかのイベントが発生すると、表示メッセージは新しいメッセージで更新されます。

- ビジー状態の電話機がオンフックに戻った。
- アイドル状態の電話機がキープアライブメッセージを受信した。
- 電話機が再起動された。

ファイル表示機能を使用して、ディスプレイ対応 IP Phone が使用されていないときに、この電話機に表示するファイルを指定できます。この機能を使用すると、テキストメッセージ機能によってメッセージを表示するときと似た方法で、設定可能な間隔で更新されるシステムメッセージを電話機ディスプレイに表示できます。これら 2 つの違いは、システムテキストメッセージ機能では電話機ディスプレイの下部に 1 行のテキストとして表示されるのに対して、システム表示メッセージ機能では表示領域全体を使用でき、グラフィックイメージも表示できる点にあります。



- (注)
- **System Message** コマンドは、Cisco Mobility Express に登録されている SCCP IP 電話機のみでサポートされています。Cisco Mobility Express モードの SIP IP 電話機ではサポートされていません。

機能ボタンの URL プロビジョニング

プログラム可能な機能ボタンの URL プロビジョニングを使用して、IP Phone の機能ボタンを使用してアクセスする代替 XML ファイルを指定できます。

Cisco Unified IP Phone 7940、7940G、7960、7960G など一部の電話機には、通話関連以外のサービスを呼び出すプログラム可能な機能ボタンがあります。サービス、ディレクトリ、メッセージ、情報 (i ボタン) の 4 つのボタンは、URL を通じて該当する機能操作にリンクされています。5 番目の設定ボタンは、完全に電話機で管理されます。

機能ボタンは、特定の URL でプロビジョニングされます。URL は、Cisco Unified IP Phone が認識し、使用する XML タグで書式設定された XML Web ページにリンクされています。機能ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone は設定されている URL を使用して、適切な XML Web ページにアクセスし、指示に従います。Web ページは、ユーザをナビゲートする情報を画面に表示するように、Cisco Unified IP Phone に指示を送信します。電話機ユーザは、ソフトキーとスクロール ボタンを使用して、オプションの選択および情報の入力ができます。

これらの機能ボタンの動作は、Cisco Unified IP Phone の機能および指定された URL の内容によって決定されます。

Cisco Unified CME 4.2 以降のバージョンでは、テンプレートを使用して設定を 1 台以上のサポート対象 SCCP 電話機に適用することで、サービス機能ボタンに最大 8 個の URL を設定できます。ephone テンプレートを使用してサービス URL を 1 台以上の SCCP 電話機に設定し、telephony-service コンフィギュレーション モードでシステム レベル サービス URL を設定した場合、電話機ユーザがサービス機能ボタンを押したときに表示されるサービスのリストに、まず、telephony-service コンフィギュレーション モードで設定された値が表示されます。エクステンション モビリティなど Cisco Unified CME セルフ ホスト サービスは、常に、サービス機能ボタンに表示されるオプションのリストの最後に表示されます。

構成情報については、[SCCP 電話機の機能ボタン用 URL のプロビジョニング \(41 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco Unified SIP IP Phone の電話アプリケーション

Cisco Unified CME 9.0 よりも前は、電話アプリケーション機能は Cisco Unified SCCP IP Phone でのみサポートされていました。

Cisco Unified CME 9.0 以降のバージョンでは、Cisco Unified SIP IP Phone でも電話アプリケーション機能がサポートされるようになりました。

My Phone アプリは、電話機のサービス機能ボタンで使用できるメニューで構成される次の設定が可能なユーザーアプリケーションです。

- スピードダイヤルの追加、変更、削除
- ファストダイヤルの追加、変更、削除
- BLF スピードダイヤルの追加、変更、削除
- SNR DN の変更

- after-hour login の実行
- 電話機のリセット

電話アプリケーション機能は、エクステンション モビリティ (EM) 電話機と非 EM 電話機の両方で使用できます。EM 電話機の場合、ユーザログインサービスを使用して、ユーザは一時的に自分の物ではない物理的な電話機にアクセスし、自分のデスクフォンと同じように個人設定を利用できます。設定の変更は、ユーザに付随して、ユーザがアクセスする次の電話機に移動します。非 EM 電話機の場合、設定の変更は、その物理的な電話機に残ります。

Cisco Unified IP Phone オプションの構成

ユーザー設定の編集を許可

始める前に

Cisco Unified CME 8.6 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **service phone** *parameter-name parameter-value*
5. **voice register global**
6. **create profile**
7. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例 : Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例 : Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	service phone <i>parameter-name parameter-value</i> 例： Router(config-telephony)# service phone paramEdibility 1	ユーザ設定編集を有効にします。
ステップ 5	voice register global 例： Router(config-telephony)# voice register global	音声レジスタグローバル構成モードを開始します。
ステップ 6	create profile 例： Router(config-register-global)# create profile	SIP Phoneに必要なプロビジョニングファイルを生成し、 tftp-path コマンドで指定した場所にファイルを書き込みます。
ステップ 7	end 例： Router(config-register-global)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

SCPP 電話機の通話履歴詳細のクリア

不在着信、発信、受信などの電話履歴の表示を SCCP IP Phone ユーザインターフェイスからクリアするには、次の手順を実行します。

始める前に

電話機から HTTP リクエストを送信できるようにするには、URL ディレクトリをデフォルト（構成済みではない）にするか、`http://<Cisco Mobility Express's ip address>/localdirectory` と構成する必要があります。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。
 - **ephone** *phone-tag*
 - **ephone template** *template tag*
4. **exclude** [**em** | **myphoneapp** | **directory** | **call-history**]
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： <pre>Router> enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	次のいずれかのコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • ephone phone-tag • ephone template template tag 例： <pre>Router(config)# ephone 10</pre>	ephone コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>phone-tag</i>— エクステンションモビリティ、My Phone アプリ、およびローカルディレクトリなどのローカルサービスを除外する電話機の一意の番号。
ステップ 4	exclude [em myphoneapp directory call-history] 例： <pre>Router(config-ephone)#exclude call-history</pre>	ローカルサービス (EM、My Phone アプリ、ローカルディレクトリおよび通話履歴) を電話機ユーザーインターフェイスで表示しないようにします。 <ul style="list-style-type: none"> • em— 電話機ユーザーインターフェイスでエクステンションモビリティ (EM) を表示しないようにします。 • myphoneapp — 電話機ユーザーインターフェイスで My Phone アプリを表示しないようにします。 • directory — 電話機のユーザーインターフェイスからローカルディレクトリサービスを除外します。 • call-history— 電話機ユーザーインターフェイスで通話履歴を表示しないようにします。
ステップ 5	end 例： <pre>Router(config-ephone)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次に、**ephone 10** および **ephone** テンプレート 5 から電話履歴を除外する方法を示します。

```
!  
telephony-service  
  max-ephones 40  
  max-dn 100  
  max-conferences 8 gain -6  
  transfer-system full-consult  
!  
!  
ephone-template 5  
  exclude call-history  
!  
!  
ephone 10  
  exclude call-history  
  device-security-mode none  
!
```

SCPP 電話機の通話履歴詳細のクリアに関するトラブルシューティングのヒント

次のリストは、この機能を正しく実装するためのトラブルシューティングのヒントです。

- ローカルディレクトリの XML タグが正しく設定され、プロビジョニングされていることを確認します。
- xml ファイルの <directoryURL> タグの属性を確認します (http://<CME の IP アドレス>/localdirectory で設定されている必要があります)。また、この XML 構成ファイルで電話機を再起動する必要があります。
- 電話機が HTTP GET 要求を送信していることを確認します。
- 「deb ip http url」を指定した Cisco Unified Cisco Mobility Express ログで、HTTP GET リクエストが有効であることを確認します。
- ディレクトリ エントリのクリア要求が電話機に送信されていることを確認します。
- お使いの電話機のローカルディレクトリで、不在着信、発信、受信を確認します。

Cisco ソフトフォン SIP クライアント向けダイヤルルールの構成

始める前に

Cisco Unified CME 8.6 以降のバージョン。

idle url のサポートは、Unified Cisco Mobility Express 12.0 以降のバージョンで利用可能です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register template *template tag***
4. **url {AppDialRule *string* | DirLookupRule *string* | ldapServer *string* | idle *url* | service *url*}**
5. **voice register pool *pool tag***
6. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： <pre>Router> enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register template <i>template tag</i> 例： <pre>Router(config)#voice register template 8</pre>	音声登録テンプレート構成モードを開始して、Cisco Unified Cisco Mobility Express の SIP 電話機の共通パラメータのテンプレートを定義します。
ステップ 4	url {AppDialRule <i>string</i> DirLookupRule <i>string</i> ldapServer <i>string</i> idle <i>url</i> service <i>url</i>} 例： <pre>Router(config-register-temp)# url ldapServer ldap.abcd.com Router(config-register-temp)# url AppDialRule tftp://10.1.1.1/AppDialRules.xml Router(config-register-temp)# url DirLookupRule tftp://10.1.1.1/DirLookupRules.xml Router(config-register-temp)# url idle http://www.mycompany.com/files/logo.xml idle-timeout 12 Router(config-register-temp)# url service http://10.0.0.4/CCMUser/123456/urltest.html</pre>	音声登録テンプレート構成モードでアプリケーションダイヤルルール、ディレクトリルックアップダイヤル、LDAPサーバー、アイドルURLおよびサービスURLを構成する SIP 電話機 URL を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • ldapservers <i>string</i> — LDAP サーバー URL。 • AppDialRule <i>string</i> — アプリケーションダイヤルルール URL。 • DirLookupRule <i>string</i> ディレクトリルックアップルール URL。 • idle <i>url</i> — 使用されていない電話機に表示するファイルの場所を定義し、更新される間隔を秒単位で指定します。 • service <i>url</i> — 電話機サービスを呼び出すために、指定された URL の情報を使用します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	voice register pool <i>pool tag</i> 例： Router(config)#voice register pool 8	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、SIP 電話機の電話機固有パラメータを設定します。
ステップ 6	end 例： Router(config-register-pool)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、音声レジスタ テンプレート 2 で設定されるダイヤルルールを示します。

```
!
voice register template 2
 url ldapServer ldap.abcd.com
 url AppDialRule tftp://10.1.1.1/AppDialRules.xml
 url DirLookupRule tftp://10.1.1.1/DirLookupRules.xml
!
```

次に、アプリケーション ダイヤル ルールの内容例を示します。

```
Router#more flash:AppDialRules.xml
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><DialRules>
  <DialRule BeginsWith="+1" NumDigits="12" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="+1" NumDigits="12" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="919" NumDigits="10" DigitsToRemove="3" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="1" NumDigits="11" DigitsToRemove="0" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="" NumDigits="10" DigitsToRemove="0" PrefixWith="91"/>
  <DialRule BeginsWith="" NumDigits="7" DigitsToRemove="0" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="13" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="14" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="15" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="12" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="11" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
</DialRules>
```

Cisco Unified SCCP IP Phone 7931G 用選択ボタンレイアウト

始める前に

Cisco Unified CME 4.0(2) 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-template** *template-tag*

4. **button-layout** *phone-type* {**1** | **2**}
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# ephone-template 15	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。
ステップ 4	button-layout <i>phone-type</i> { 1 2 } 例： Router(config-ephone-template)# button-layout 7931 2	設定中のテンプレートを使用する Cisco Unified IP Phone 7931G に表示する機能ボタンの固定セットを指定します。 • 1 — 事前定義された 2 個の機能ボタンが含まれます：ボタン 24 がメニュー、ボタン 23 がヘッドセット。 • 2 — 事前定義された 4 個の機能ボタンが含まれます：ボタン 24 がメニュー、ボタン 23 がヘッドセット、ボタン 22 がディレクトリ、ボタン 21 がメッセージ。
ステップ 5	exit 例： Router(config-ephone-template)# exit	このコマンドモードを終了して、コンフィギュレーションモード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 6	ephone <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 1	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config-ephone)# ephone-template 15	ephone テンプレートを、設定する ephone に適用します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	end 例： Router(config-ephone)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

SCCP 電話機のボタンレイアウトの構成

始める前に

- Cisco Unified CME 8.5 以降のバージョン。
- 回線、機能、URL、スピードダイヤルおよび BLF スピードダイヤルなどのボタンタイプは、**button**、**feature-button** または **privacy-button**、**url-button**、**speed-dial** および **blf-speed-dial** をそれぞれ使用して構成します。
- 最初のボタンが回線ボタンとして設定されていること。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-template** *template tag*
4. **button-layout** [*button-string* | *button-type*]
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	ephone-template <i>template tag</i> 例： Router(config)# ephone 10	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。
ステップ 4	button-layout [<i>button-string</i> <i>button-type</i>] 例： Router(config-ephone-template)#button-layout 1 line Router(config-ephone-template)#button-layout 2,5 speed-dial Router(config-ephone-template)#button-layout 3,6 blfspeed-dial Router(config-ephone-template)#button-layout 4,7,9 feature Router(config-ephone-template)# button-layout 8,11 url	物理的なボタン番号またはボタンタイプ付きの番号の範囲を割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>button-string</i>— 物理的なボタン番号またはボタン番号の範囲のカンマ区切りのリストを指定します。 • <i>button-type</i>— 回線、スピードダイヤル、BLF スピードダイヤル、機能、URL のボタンタイプのいずれかを指定します。ボタン番号は、ボタンタイプ (回線ボタン、スピードダイヤル、BLF スピードダイヤル、機能ボタンまたは URL ボタン) 内のボタンの相対的な表示順序を指定します。 <p>(注) 電話機のプロビジョニングを容易にするには、最初の回線ボタンを常に回線ボタンにする必要があります。</p> <p>(注) 機能ボタンが設定されていない場合、プライバシー ボタンが機能ボタンとしてカウントされます。</p>
ステップ 5	exit 例： Router(config-ephone-template)# exit	このコマンドモードを終了して、コンフィギュレーションモード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 6	ephone <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 1	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config-ephone)# ephone-template 10	ephone テンプレートを、設定する ephone に適用します。
ステップ 8	end 例： Router(config-ephone)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

例

```
Router# show telephony-service ephone-template
ephone-template 10
  button-layout 1 line
  button-layout 2,5 speed-dial
  button-layout 3,6 blf-speed-dial
  button-layout 4,7,9 feature
  button-layout 8,11 url
```

次のタスク

Cisco Unified CME で SCCP 電話のパラメータの修正が完了したら、電話機を再起動します。

SIP 電話機のボタンレイアウトの構成



- (注) ボタン番号はボタンタイプ（回線ボタン、スピードダイヤル、BLF スピードダイヤル、機能ボタン、または URL ボタン）内のボタンの相対的な表示順を指定するため、ボタンレイアウト設定から `line button` コマンドまたは `index` コマンドでボタン番号を変更することはできません。

始める前に

- Cisco Unified CME 8.5 以降のバージョン。
- ボタンレイアウトを設定する前に、ボタンタイプ（回線ボタン、機能ボタン、URL ボタン、スピードダイヤル ボタン、および BLF スピードダイヤル ボタン）が設定されていること。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register template** *template-tag*
4. **button-layout** [*button-string*] [*button-type*]
5. **exit**
6. **voice register pool** *pool-tag*
7. **template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# voice register template 5	音声レジスタ テンプレート コンフィギュレーションモードを開始し、SIP 電話機のテンプレートを作成します。 • template-tag : 範囲 : 1 ~ 10。
ステップ 4	button-layout [<i>button-string</i>] [<i>button-type</i>] 例： Router(config-register-template)#button-layout 1 line Router(config-register-template)#button-layout 2, 5 speed-dial Router(config-register-template)#button-layout 3, 6 blfspeed-dial Router(config-register-template)#button-layout 4,7,9 feature-button Router(config-register-template)# button-layout 8,11 url-button	物理的なボタン番号またはボタンタイプ付きの番号の範囲を割り当てます。 • button-string — 物理的なボタン番号またはボタン番号の範囲のカンマ区切りのリストを指定します。 • button-type — 回線、スピードダイヤル、BLF スピードダイヤル、機能、URL のボタンタイプのいずれかを指定します。 (注) 電話機のプロビジョニングを容易にするには、最初の回線ボタンを常に回線ボタンにする必要があります。 (注) 機能ボタンが設定されない場合、プライバシー ボタンが機能ボタンとしてカウントされます。
ステップ 5	exit 例： Router(config-register-template)# exit	音声レジスタ テンプレート コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	voice register pool <i>pool-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 10	音声レジスタ プール コンフィギュレーションモードを開始して、SIP 電話機の電話機固有パラメータを設定します。
ステップ 7	template <i>template-tag</i> 例：	SIP 電話機テンプレートを、設定する電話機に適用します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config-register-pool)# template 5	<ul style="list-style-type: none"> • <i>template-tag</i>— ステップ 3 (22 ページ) の音声登録テンプレートコマンドを使用して作成されたテンプレートタグ。
ステップ 8	end 例 : Router(config-register-pool)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

```
Router# show voice register template all
!
voice register dn 65
  number 3065
  name SIP-7965
  label SIP3065
!
voice register template 5
  button-layout 1 line
  button-layout 2,5 speed-dial
  button-layout 3,6 blf-speed-dial
  button-layout 4,7,9 feature-button
  button-layout 8,11 url-button
!
voice register template 2
  button-layout 1,5 line<
  button-layout 4 speed-dial
  button-layout 3,6 blf-speed-dial
  button-layout 7,9 feature-button
  button-layout 8,10-11 url-button
!
```

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

SIP IP 電話回線キーのサービス URL ボタンの構成

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register template *template-tag***
4. **url-button [*index number*] [*url location*] [*url name*]**
5. **exit**
6. **voice register pool *phone-tag***
7. **template *template-tag***

8. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# voice register template 5	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。 • <i>template-tag</i> — 作成される ephone テンプレートの固有識別子。範囲は 1 ~ 10 です。
ステップ 4	url-button [<i>index number</i>] [<i>url location</i>] [<i>url name</i>] 例： Router(config-register-temp)url-button 1 http://www.cisco.com	回線キーのサービス URL 機能ボタンを構成します。 • <i>Index number</i> : 一意のインデックス番号。範囲 : 1 ~ 8。 • <i>url location</i> — URL のロケーション。 • <i>url name</i> — 最大長が 31 文字のサービス URL。
ステップ 5	exit 例： Router(config-register-temp)# exit	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	voice register pool <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 12	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。
ステップ 7	template <i>template-tag</i> 例： Router(config-register-pool)# template 5	ephone テンプレートを電話機に適用します。 • <i>template-tag</i> — ステップ 3 (24 ページ) で作成したテンプレートの固有識別子。
ステップ 8	end 例： Router(config-register-pool)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、音声レジスタ テンプレート 1 で設定される URL ボタンを示します。

```

Router# show run
!
voice register template 1

url-button 1 http://9.10.10.254:80/localdirectory/query My_Dir
url-button 5 http://www.yahoo.com Yahoo

!
voice register pool 50
!
```

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機の URL ボタンの設定が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

SCCP 電話回線キーのサービス URL ボタンの構成

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone template** *template-tag*
4. **url-button** *index type* | *url* [*name*]
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone template <i>template-tag</i> 例：	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、 ephone テンプレートを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config)# ephone template 5	<ul style="list-style-type: none"> • <i>template-tag</i>— 作成される ephone テンプレートの固有識別子。範囲は 1 ~ 10 です。
ステップ 4	url-button index type url [name] 例 : <pre>Router# (config-ephone-template) #url-button 1 myphoneapp Router (config-ephone-template) #url-button 2 em Router (config-ephone-template) #url-button 3 snr Router (config-ephone-template) #url-button 4 http://www.cisco.com</pre>	回線キーのサービス URL 機能ボタンを構成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>Index</i>— 一意のインデックス番号。範囲 : 1 ~ 8。 • type サービス URL ボタンのタイプ。次のタイプの URL サービス ボタンを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>myphoneapp</i> : 電話機のユーザインターフェイスで設定された電話アプリケーション。 • <i>em</i> : エクステンション モビリティ • <i>snr</i> : シングル ナンバー リーチ • <i>url name</i>— 最大長が 31 文字のサービス URL。
ステップ 5	exit 例 : <pre>Router (config-ephone-template) # exit</pre>	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	ephone phone-tag 例 : <pre>Router (config) #ephone 36</pre>	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>phone-tag</i>— 構成タスク中にこの ephone を識別する一意のシーケンス番号。
ステップ 7	ephone-template template-tag 例 : <pre>Router (config-ephone) # ephone-template 5</pre>	ephone テンプレートを、設定する ephone に適用します。
ステップ 8	end 例 : <pre>Router (config-ephone) # end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、回線キー用に設定される 3 つの URL ボタンを示します。

```
!
!
!
ephone-template 5
```

```

url-button 1 em
url-button 2 mphoneapp mphoneapp
url-button 3 snr
!
ephone 36
ephone-template 5

```

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機の URL ボタンの設定が完了したら、電話機を再起動します。

Cisco Unified SIP 電話回線キーの機能ボタンの構成

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register template** *template-tag*
4. **feature-button** [*index*] [*feature identifier*]
5. **exit**
6. **voice register pool** *phone-tag*
7. **template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# voice register template 5	ephone テンプレート コンフィギュレーションモードを開始して、ephone テンプレートを作成します。 • <i>template-tag</i> — 作成される ephone テンプレートの固有識別子。範囲は 1 ~ 10 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 機能ボタンは、 voice register pool または voice register template 構成モードで構成できます。両方の構成が、 voice register pool に適用された場合、 voice register pool の機能ボタン構成が優先されます。
ステップ 4	feature-button [<i>index</i>] [<i>feature identifier</i>] 例 : <pre>Router(config-voice-register-template) feature-button 1 DnD Router(config-voice-register-template) feature-button 2 EndCall Router(config-voice-register-template) feature-button 3 Cfdall</pre>	回線キーの機能ボタンを構成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>index</i> — 特定の機能タイプの 12 個のインデックス番号のいずれか。 • <i>feature identifier</i> — 機能の固有識別子。次の機能または stimulus ID のいずれか : Redial、Hold、Trnsfer、Cfdall、Privacy、MeetMe、Confrn、Park、Pickup、Gpickup、Mobility、NewCall、EndCall、Dnd、ConfList、NewCall、HLog、Trnsfer。
ステップ 5	exit 例 : <pre>Router(config-register-temp)# exit</pre>	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	voice register pool <i>phone-tag</i> 例 : <pre>Router(config)# voice register pool 12</pre>	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。
ステップ 7	template <i>template-tag</i> 例 : <pre>Router(config-register-pool)# template 5</pre>	ephone テンプレートを電話機に適用します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>template-tag</i> — ステップ 3 (27 ページ) で作成したテンプレートの固有識別子。
ステップ 8	end 例 : <pre>Router(config-register-pool)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、回線キーに設定される 3 つの機能ボタンを示します。

```
voice register template 5
  feature-button 1 DnD
  feature-button 2 EndCall
```

```
feature-button 3 Cfdwall
!  
!  
voice register pool 12  
template 5
```

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機の URL ボタンの設定が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

Cisco Unified SCCP 回線キーの機能ボタンの構成



- (注)
- 応答、選択、C 割込、参加、および復帰の各機能は PLK としてサポートされません。
 - 機能ボタンは、次の Cisco Unified IP Phone でのみサポートされます。6911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、および 7975（それぞれ SCCP v12 以降のバージョンを搭載）。
 - ハード ボタンから使用できる機能はプロビジョニングされません。機能ボタンがプロビジョニングされない理由を確認するには、`show ephone register detail` コマンドを使用します。
 - Cisco Unified IP Phone 6911 電話機では、一部の機能ボタンがサポートされません。コール自動転送、ピックアップ、グループピックアップ、およびミーティングのみが Cisco Unified IP Phone 6911 でサポートされる機能ボタンです。
 - プライバシー ボタンは、SCCP v8 以降を実行している Cisco Unified IP Phone で使用できます。プライバシーボタンよりも、使用できる他の機能ボタンが優先されます。
 - ロケールは Cisco Unified IP Phone 7914 ではサポートされません。
 - コール待機のキャンセルまたはライブレコード機能ボタンではロケールがサポートされません。
 - DnD、Hlog、プライバシー、ログインおよびナイトサービス機能ボタンの機能の状態は LED で示されます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone template** *template-tag*
4. **feature-button** *index feature identifier*
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*

8. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# ephone template 10	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。 • <i>template-tag</i> — 作成される ephone テンプレートの固有識別子。範囲は 1 ~ 10 です。
ステップ 4	feature-button <i>index feature identifier</i> 例： Router(config-ephone-template) feature-button 1 hold	回線キーの機能ボタンを設定します • <i>index</i> - 特定の機能タイプの 25 個のインデックス番号のいずれか。 • <i>feature identifier</i> - 機能 ID または stimulus ID。
ステップ 5	exit 例： Router(config-ephone-template)# exit	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	ephone <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 5	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの ephone を識別する一意のシーケンス番号。
ステップ 7	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config-ephone)# ephone-template 10	ephone テンプレートを、設定する ephone に適用します。
ステップ 8	end 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、回線キーに設定される機能ボタンを示します。

```

!
!
!
ephone-template 10
  feature-button 1 Park
  feature-button 2 MeetMe
  feature-button 3 CallBack
!
!
ephone-template 10

```

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機の機能ボタンの設定が完了したら、電話機を再起動します。

Phone ユーザーインターフェイスのローカルサービスのブロック

SCCP IP Phone のユーザーインターフェイスでローカルディレクトリ、エクステンションモバイルティ (EM)、および電話アプリケーションなどのローカルサービスの表示および可用性をブロックするには、次の手順を実行します。

始める前に

Cisco Unified CME 8.5 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone *phone-tag*** または **ephone template *template tag***
4. **exclude [em | myphoneapp | directory]**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	ephone <i>phone-tag</i> または ephone template <i>template tag</i> 例： <pre>Router(config)# ephone 10</pre>	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>phone-tag</i>— エクステンションモビリティ、My Phone アプリ、およびローカルディレクトリなどのローカルサービスを除外する電話機の一意の番号。
ステップ 4	exclude [em myphoneapp directory] 例： <pre>Router(config-ephone)#exclude directory em</pre>	電話機のユーザーインターフェイスでの表示からローカルサービス（EM、電話アプリケーション、およびローカルディレクトリ）を除外します。 <ul style="list-style-type: none"> • em — 電話機ユーザーインターフェイスでエクステンションモビリティ（EM）を表示しないようにします。 • myphoneapp — 電話機ユーザーインターフェイスで My Phone アプリを表示しないようにします。 • directory — 電話機のユーザーインターフェイスからローカルディレクトリ サービスを除外します。
ステップ 5	end 例： <pre>Router(config-ephone)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、電話機のユーザーインターフェイスから除外されたローカルディレクトリおよびエクステンションモビリティ サービスを示します。

```
ephone 10
  exclude directory em
  device-security-mode none
  description sccp7961
  mac-address 0007.0E57.7561
```


SCCP 電話機のヘッダーバー表示の変更

始める前に

変更するディレクトリ番号が、すでに設定されていること。構成情報については、[SCCP 電話機の電話番号の作成](#)を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-dn dn-tag**
4. **description display-text**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-dn dn-tag 例： Router(config)# ephone-dn 55	ephone-dn コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	description display-text 例： Router(config-ephone-dn)# description 408-555-0134	この ephone-dn を最初の行として表示するディスプレイ対応 IP Phone のヘッダーバーの説明を定義します。 • <i>display-text</i> 最大 40 文字の英数字文字列。ディスプレイでは、文字列は 14 文字で切り捨てられます。
ステップ 5	end 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

ヘッダーバー表示の変更対応 SIP 電話機の変更



制約事項 この機能は、Cisco Unified IP Phone 7940、7940G、7960、および 7960G だけでサポートされます。

始める前に

Cisco CME 3.4 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register pool** *pool-tag*
4. **description** *string*
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register pool <i>pool-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 3	音声登録プール構成モードを開始し、Cisco Unified Cisco Mobility Express の SIP 電話機に対して電話機固有パラメータを設定します。
ステップ 4	description <i>string</i> 例： Router(config-register-pool)# description 408-555-0100	サポートされる Cisco Unified IP Phone のヘッダーバーに表示される、カスタマイズされた説明を定義します。 • ディスプレイでは、14 文字で切り捨てられます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> 文字列にスペースを含める場合は、文字列全体を引用符で囲みます。
ステップ 5	end 例： Router(config-register-pool)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

ヘッダーバー表示の確認

show running-config コマンドを使用して構成を確認します。ディレクトリ番号の説明が、出力の **ephone-dn** および **voice-register dn** 部分にリストされます。

例：

```
Router# show running-config

ephone-dn 1 dual-line
number 150 secondary 151
description 555-0150
call-forward busy 160
call-forward noan 160 timeout 10
huntstop channel
no huntstop
!
!
!
voice-register dn 1
number 1101
description 555-0101
```

ヘッダーバーの表示のトラブルシューティング

show telephony-service ephone

このコマンドを使用して、説明を適用した **ephone-dn** が **ephone** の最初のボタンに表示されることを確認します。次の例では、電話ディスプレイ ヘッダー バーの **ephone-dn 22** に説明が表示されます。

```
Router# show telephony-service ephone

ephone-dn 22
number 2149
```

```

description 408-555-0149

ephone 34
mac-address 0030.94C3.F96A
button 1:22 2:23 3:24
speed-dial 1 5004
speed-dial 2 5001

```

SCCP 電話機でのディレクトリ番号のラベル作成

回線ボタンの横に、番号の代わりに表示されるラベルを作成するには、次の手順を実行します。

始める前に

ラベルを作成するディレクトリ番号が、すでに設定されていること。構成情報については、[SCCP 電話機の電話番号の作成](#)を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-dn *dn-tag***
4. **label *label-string***
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-dn <i>dn-tag</i> 例： Router(config)# ephone-dn 1	ephone-dn コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>dn-tag</i> — ラベルを関連付ける ephone-dn を識別する一意のシーケンス番号。
ステップ 4	label <i>label-string</i> 例：	電話機で、この ephone-dn に関連付けられた回線ボタンの横に表示されるカスタム ラベルを作成します。カスタム ラベルはデフォルト ラベルと置き換

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config-ephone-dn)# label user1	えられます。デフォルト ラベルは、この ephone-dn に割り当てられた番号です。 • <i>label-string</i> ラベルテキストを提供する最大 30 文字の英数字文字列。
ステップ 5	end 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

SIP 電話機でのディレクトリ番号のラベル作成

SIP 電話機、インターコム回線、音声ポート、またはメッセージ待機インジケータ (MWI) のディレクトリ番号の代わりに表示するラベルを作成するには、作成するラベルごとに、次の手順を実行します。



制約事項 各ディレクトリ番号に許可されるラベルは 1 個だけです。

始める前に

- Cisco CME 3.4 以降のバージョン。
- ラベルを作成するディレクトリ番号がすでに構成され、**number (voice register dn)** コマンドを使用して、番号がすでに割り当てられていること。構成情報については、[SIP 電話機にディレクトリ番号を作成する](#)を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register dn** *dn-tag*
4. **number** *number*
5. **label** *string*
6. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register dn dn-tag 例： Router(config-register-global)# voice register dn 17	音声登録 DN 構成モードを開始して、SIP 電話機のディレクトリ番号、インターコム回線、音声ポート、またはメッセージ待機インジケータ (MWI) を定義します。
ステップ 4	number number 例： Router(config-register-dn)# number 7001	ディレクトリ番号に有効な番号を定義します。
ステップ 5	label string 例： Router(config-register-dn)# label user01	電話番号表示の代わりに、SIP 電話機のコンソールに表示されるディレクトリ番号のテキスト識別子を作成します。
ステップ 6	end 例： Router(config-register-dn)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

ラベル確認

show running-config コマンドを使用して構成を確認します。ディレクトリ番号の説明が、出力の **ephone-dn** および **voice-register dn** 部分にリストされます。

```
Router# show running-config

ephone-dn 1 dual-line
number 150 secondary 151
label MyLine
call-forward busy 160
call-forward noan 160 timeout 10
huntstop channel
```

```

no huntstop
!
!
!
voice-register dn 1
number 1101
label MyLine

```

SCCP 電話画面のシステムメッセージ表示の変更

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **system message *text-message***
5. **url idle *url idle-timeout seconds***
6. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	system message <i>text-message</i> 例： Router(config-telephony)# system message ABC Company	電話機がアイドル状態のときに表示されるテキストメッセージを定義します。 • <i>text-message</i> 表示される英数文字列。ディスプレイではプロポーショナルフォントが使用されるため、表示される文字数は、使用する文字の幅によって異なります。表示される最大文字数は約 30 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	url idle url idle-timeout seconds 例 : <pre>Router(config-telephony)# url idle http://www.abcwrecking.com/public/logo idle-timeout 35</pre>	使用されていない電話機に表示されるファイルの場所を定義し、表示が更新される間隔を秒単位で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>url</i>— RFC 2396 に準拠した任意の URL。 • <i>seconds</i>— 表示が更新される間隔（秒単位）。範囲は 0 ~ 300 です。
ステップ 6	end 例 : <pre>Router(config-telephony)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

url idle コマンドを設定した後、電話機をリセットする必要があります。「[SCCP 電話機での reset コマンドの使用](#)」を参照してください。

システムメッセージ表示の確認

show running-config コマンドを使用して構成を確認します。システムメッセージの表示は、出力の telephony-service 部分にリストされます。

```
Router# show running-config

telephony-service
  fxo hook-flash
  load 7960-7940 P00307020300
  load 7914 S00104000100
  max-ephones 100
  max-dn 500
  ip source-address 10.153.13.121 port 2000
  max-redirect 20
  timeouts ringing 100
  system message XYZ Company
  voicemail 7189
  max-conferences 8 gain -6
  call-forward pattern .T
  moh flash:music-on-hold.au
  multicast moh 239.10.10.1 port 2000
  web admin system name server1 password server1
  dn-webedit
  time-webedit
  transfer-system full-consult
  transfer-pattern 92.....
  transfer-pattern 91.....
  transfer-pattern 93.....
  transfer-pattern 94.....
  transfer-pattern 95.....
  transfer-pattern 96.....
  transfer-pattern 97.....
```



```
transfer-pattern 98.....
transfer-pattern 99.....
transfer-pattern .T
secondary-dialtone 9
create cnf-files version-stamp Jan 01 2002 00:00:00
```

システム メッセージの表示のトラブルシューティング

HTTP サーバが有効であることを確認します。

SCCP 電話機の機能ボタン用 URL のプロビジョニング

SCCP 電話機の Sep*.conf.xml 構成ファイルの機能ボタンの URL をカスタマイズするには、次の手順を実行します。



制約事項

- これらのサービスの操作は、Cisco Unified IP Phone 機能と指定 URL のコンテンツによって決定されます。
- 電話機の [i] ボタンまたは [?] ボタンを使用してヘルプ画面にアクセスする URL のプロビジョニングはサポートされません。
- ディレクトリ URL のプロビジョニングによって外部ディレクトリ リソースを選択すると、Cisco Unified CME のローカルディレクトリ サービスは無効になります。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **url { directories | information | messages | services } url**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： <pre>Router(config)# telephony-service</pre>	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	url {directories information messages services} url 例： <pre>Router(config-telephony)# url directories http://10.4.212.4/localdirectory</pre>	<p>サポートされる Cisco Unified IP Phone で、4 個のプログラム可能な機能ボタン（ディレクトリ、情報、メッセージ、サービス）の URL をプロビジョニングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager ディレクトリを外部ディレクトリソースとして使用するには、電話機の MAC アドレスを Cisco Unified Communications Manager でリストし、Cisco Unified Communications Manager から電話機をリセットする必要があります。電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録するために、ephone-dn を電話機に割り当てる必要はありません。 • ephone テンプレート構成モードでは、url services コマンドも利用できます。ephone テンプレートを使用して、1 台以上の SCCP 電話機の [サービス (Services)] 機能ボタンをプロビジョニングし、telephony-service 構成モードで url services コマンドを構成する場合、最初に telephony-service 構成モードで設定した値が、[サービス (Services)] 機能ボタンを押した際に表示されるオプションの一覧に表示されます。
ステップ 5	end 例： <pre>Router(config-telephony)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

ephone テンプレートを作成してサポートされる個別の SCCP 電話機の [サービス (Services)] 機能ボタンに複数の URL をプロビジョニングする場合は、「[テンプレート](#)」を参照してください。

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

SIP 電話機の機能ボタン用 URL のプロビジョニング

SIP IP Phone の SEPDEFAULT.cnf コンフィギュレーション プロファイルで機能ボタンの URL をカスタマイズするには、次の手順を実行します。



制約事項

- これらのサービスの操作は、Cisco Unified IP Phone 機能と指定 URL のコンテンツによって決定されます。
- ディレクトリ URL のプロビジョニングによって外部ディレクトリ リソースを選択すると、Cisco Unified CME のローカル ディレクトリ サービスは無効になります。

始める前に

Cisco CME 3.4 以降のバージョン。

idle url のサポートは、Unified Cisco Mobility Express 12.0 以降のバージョンで利用可能です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register global**
4. **url { authentication | directory | service | idle } url**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register global 例： Router(config)#	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<p>url {authentication directory service idle} url</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-global)# url directory http://10.0.0.11/localdirectory Router(config-register-global)# url service http://10.0.0.4/CCMUser/123456/urltest.html Router(config-register-global)# url idle http://www.mycompany.com/files/logo.xml idle-timeout 12</pre>	<p>URL を SIP 電話機のプログラム可能な機能ボタンに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • url authentication url — 電話機 Web サーバーに発行されたリクエストを検証するために指定された URL の情報を使用します。 • url directory url — 指定された URL の情報をディレクトリボタンのディスプレイで使用します。 • url service url [root] — 指定された URL の情報をサービスボタンのディスプレイで使用します。 • url idle url — 使用されていない電話機に表示するファイルの場所を定義し、更新される間隔を秒単位で指定します。
ステップ 5	<p>end</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-global)# end</pre>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[SIP 電話機用構成プロファイルの生成](#)」を参照してください。

機能ボタンの URL プロビジョニングのトラブルシューティング

HTTP サーバが有効となり、Cisco Unified CME ルータとサーバの間で通信できることを確認します。

すべての SCCP 電話機用ベンダーパラメータの変更

すべての電話機について、SepDefault.conf.xml 構成ファイルの vendorConfig セクションにあるプログラム可能な電話および表示パラメータを設定するには、次の手順を実行します。



制約事項

- 現在ロードされているファームウェアでサポートされるパラメータだけが使用できます。
- パラメータの数およびタイプは、ファームウェアのバージョンによって異なります。
- Cisco Unified IP Phone およびファームウェアのバージョンでサポートされるパラメータだけが実装されます。サポートされないパラメータは無視されます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **service phone *parameter-name parameter-value***
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	service phone <i>parameter-name parameter-value</i> 例： Router(config-telephony)# service phone daysDisplayNotActive 1,2,3,4,5,6,7 Router(config-telephony)# service phone displayOnTime 07:30 Router(config-telephony)# service phone displayOnDuration 10:00 Router(config-telephony)# service phone displayIdleTimeout 00.01	設定されているパラメータをサポートし、このテンプレートが適用されるすべての IP Phone の表示および電話機能を設定します。 • パラメータ名は単語で、大文字と小文字が区別されます。パラメータの一覧については、 「Unified Cisco Mobility Express コマンド参照資料」 を参照してください。 • このコマンドは、 ephone テンプレート構成モードで構成して、1 台以上の電話機に適用することもできます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	end 例： Router (config-telephony) # end	特権 EXEC モードに戻ります。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

特定の SCCP 電話機用ベンダーパラメータの変更

個別の SCCP 電話機について、Sep*.conf.xml 構成ファイルの vendorConfig セクションにあるパラメータを設定するには、次の手順を実行します。



制約事項

- Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョン。
- 各電話構成ファイルに合わせてシステムが設定されていること。構成情報については、[SCCP 電話機用電話機別構成ファイルと代替ロケーションの定義](#)を参照してください。
- 現在ロードされているファームウェアでサポートされるパラメータだけが使用できません。
- パラメータの数およびタイプは、ファームウェアのバージョンによって異なります。
- Cisco Unified IP Phone およびファームウェアのバージョンでサポートされるパラメータだけが実装されます。サポートされないパラメータは無視されます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-template** *template-tag*
4. **service phone** *parameter-name parameter-value*
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router (config)# ephone-template 15	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。
ステップ 4	service phone <i>parameter-name parameter-value</i> 例： Router(config-telephony)# service phone daysDisplayNotActive 1,2,3,4,5,6,7 Router(config-telephony)# service phone displayOnTime 07:30 Router(config-telephony)# service phone displayOnDuration 10:00 Router(config-telephony)# service phone displayIdleTimeout 00.01	設定されている機能をサポートし、このテンプレートが適用されるすべての IP Phone のパラメータを設定します。 • パラメータ名は単語で、大文字と小文字が区別されます。パラメータのリストについては、「 Cisco Unified Cisco Mobility Express コマンド参照資料 」を参照してください。 • このコマンドは、telephony-service コンフィギュレーションモードでも設定できます。各電話機で、このコマンドのテンプレート設定は、このコマンドのシステム レベルの設定よりも優先されます。
ステップ 5	exit 例： Router(config-ephone-template)# exit	このコマンドモードを終了して、コンフィギュレーションモード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 6	ephone <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 1	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config-ephone)# ephone-template 15	ephone テンプレートを、設定する ephone に適用します。
ステップ 8	end 例： Router(config-ephone)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

ベンダーパラメータ設定のトラブルシューティング

ステップ 1 テンプレートが正しく電話機に適用されていることを確認します。

ステップ 2 `create cnf-files` コマンドを使用して構成ファイルを生成し、テンプレート適用後に電話機をリセットしたことを確認します。

ステップ 3 `show telephony-service tftp-bindings` コマンドを使用して、各電話機に関連付けられている構成ファイルを表示します。

例：

```
Router# show telephony-service tftp-binding

tftp-server system:/its/SEPDEFAULT.cnf
tftp-server system:/its/SEPDEFAULT.cnf alias SEPDefault.cnf
tftp-server system:/its/XMLDefault.cnf.xml alias XMLDefault.cnf.xml
tftp-server system:/its/ATADefault.cnf.xml
tftp-server system:/its/XMLDefault7960.cnf.xml alias SEP00036B54BB15.cnf.xml
tftp-server system:/its/germany/7960-font.xml alias German_Germany/7960-font.xml
tftp-server system:/its/germany/7960-dictionary.xml alias German_Germany/7960-dictionary.xml
tftp-server system:/its/germany/7960-kate.xml alias German_Germany/7960-kate.xml
tftp-server system:/its/germany/SCCP-dictionary.xml alias German_Germany/SCCP-dictionary.xml
tftp-server system:/its/germany/7960-tones.xml alias Germany/7960-tones.xml
```

ステップ 4 `debug tftp events` コマンドを使用して、電話機をリブートする際に電話機がファイルに関連付けられているか確認します。

Cisco Unified SCCP ワイヤレス IP 電話の一方向 Push-to-Talk の構成

一方向 Push-to-Talk (PTT) 機能用に、Cisco Unified CME で電話機のボタンをワイヤレス電話機の親指ボタンに関連付けるには、次の手順を実行します。



制約事項 Cisco Unified Wireless IP Phone 7921 および 7925 でのみサポートされます。

始める前に

- Cisco Unified CME 7.0 以降のバージョン。
- Cisco Phone ファームウェア バージョン 1.0.4 以降のバージョン。

- 各電話構成ファイルに合わせてシステムが設定されていること。構成情報については、[SCCP 電話機用電話機別構成ファイルと代替ロケーションの定義](#)を参照してください。
- 親指ボタンに関連付ける電話機のボタンが、ページング番号を対象とするインターコム DNで設定されていること。構成情報については、[インターコム回線](#)を参照してください。
- インターコム回線でダイヤルされるポケットベルグループが設定されていること。対象のポケットベルグループは、ユニキャスト、マルチキャスト、これら両方のどれでもかまいません。構成情報については、[ページング](#)を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-template** *template-tag*
4. **service phone thumbButton1 PTH** *button_number*
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router (config)# ephone-template 12	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。
ステップ 4	service phone thumbButton1 PTH <i>button_number</i> 例： Router(config-ephone-template)# service phone thumbButton1 PTH6	ユーザが親指ボタンを押したときに、オフフックになるボタンを指定します。 • <i>button_number</i> ページング番号を対象とするインターコム dn で構成されている電話機のボタン。範囲は 1 ~ 6 です。 • キーワード/引数の組み合わせである PTH および <i>button_number</i> の間にはスペースを入れません。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> このコマンドは、<code>telephony-service</code> コンフィギュレーションモードでも設定できます。各電話機で、このコマンドのテンプレート設定は、このコマンドのシステムレベルの設定よりも優先されます。
ステップ 5	exit 例： <pre>Router(config-ephone-template)# exit</pre>	このコマンドモードを終了して、コンフィギュレーションモード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ 6	ephone phone-tag 例： <pre>Router(config)# ephone 1</pre>	<code>ephone</code> コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	ephone-template template-tag 例： <pre>Router(config-ephone)# ephone-template 12</pre>	<code>ephone</code> テンプレートを、設定する <code>ephone</code> に適用します。
ステップ 8	end 例： <pre>Router(config-ephone)# end</pre>	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

Cisco Unified Cisco Mobility Express の CSF クライアント向け Cisco Jabber の構成

始める前に

Unified Cisco Mobility Express リリース 12.5 以降のリリースが必要です。

Cisco Jabber クライアントの Cisco Jabber 12.1(0) 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip http secure-server**
4. **ip http secure-port** ポート番号
5. **voice register dn dn-tag**
6. **number number**
7. **voice register pool phone-tag**
8. **id device-id-name name**
9. **type type**
10. **number number**

11. **username** *username* **password** *password*
12. **description** *string*
13. **exit**
14. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ip http secure-server 例： Router(config)# ip http secure-server	セキュア HTTP (HTTPS) サーバを有効にします。HTTPS サーバーは、セキュアソケットレイヤ (SSL) バージョン 3 プロトコルを使用します。
ステップ 4	ip http secure-port ポート番号 例： Router(config)# ip http secure-port 8443	リスニングには、HTTPS サーバーポート番号を設定します。
ステップ 5	voice register dn <i>dn-tag</i> 例： Router(config)# voice register dn 1	Cisco Unified Cisco Mobility Express に直接接続されている SIP IP Phone の電話番号を作成します。
ステップ 6	number <i>number</i> 例： Router(config-register-dn)# number 991001	SIP IP 電話機の番号を定義します。
ステップ 7	voice register pool <i>phone-tag</i> 例： Router# voice register pool 1	Cisco Unified Cisco Mobility Express システムの SIP IP 電話機の電話機タイプを設定します。
ステップ 8	id device-id-name <i>name</i> 例： Router(config-register-pool)# id device-id-name JabberWIN	電話機タイプのデバイス ID を指定します。 サポートされているデバイス ID の一覧は、「 Cisco Unified Communications Manager Express コマンド参照資料 」を参照してください。 名前を電話機タイプに割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • <i>name</i> SIP ソフトクライアントデバイス ID 名を指定する文字列。デバイス ID 名の文字列は最大 32 文字です。
ステップ 9	type <i>type</i> 例： <pre>Router(config-register-pool)# type Jabber-CSF-Client</pre>	電話機タイプを定義します。
ステップ 10	number <i>number</i> 例： <pre>Router(config-register-pool)# number 1</pre>	SIP IP 電話機の番号を定義します。
ステップ 11	username <i>username</i> password <i>password</i> 例： <pre>Router(config-register-pool)# username jabber1 password jabber1</pre>	ユーザ名とパスワードを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>Username</i>— 電話機タイプのユーザー名を指定します。 • <i>Password</i>— 電話機タイプのパスワードを指定します。
ステップ 12	description <i>string</i> 例： <pre>Router(config-register-pool)# description Jabber-CSF-Client</pre>	説明を Cisco Jabber クライアントに関連付けます。最大 64 文字の文字列を入力します。スペースを含めて最大 128 文字。
ステップ 13	exit 例： <pre>Router(config-register-pool)# exit</pre>	音声登録プール構成モードを終了します。
ステップ 14	end 例： <pre>Router(config)# end</pre>	特権 EXEC コンフィギュレーションモードを終了します。

次のタスク

Cisco Unified CME で電話機のパラメータの修正が完了したら、新しい構成ファイルを生成し、電話機を再起動します。「[電話機用構成ファイルの生成](#)」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone オプションの設定例

Cisco Jabber の構成例

次の例では、音声レジスタ プール 10 で設定される電話タイプ Cisco Jabber を示します。

```
!  
voice register dn 10  
  number 1089  
  call-forward b2bua busy 1500  
  call-forward b2bua mailbox 1500  
  call-forward b2bua noan 1500 timeout 20  
  pickup-call any-group  
  pickup-group 1  
  name CME SIP iPhone  
  label CME SIP iPhone  
!  
!  
voice register pool 8  
  registration-timer max 720 min 660  
  park reservation-group 1  
  session-transport tcp  
  type CiscoMobile-iOS  
  number 1 dn 10  
  dtmf-relay rtp-nte  
!  
ephone-dn 61  
  number 1061  
  park-slot reservation-group 1 timeout 10 limit 2 recall retry 2 limit 2  
!
```

Cisco Jabber CSF クライアントの構成例

次の例は、完全な UC モードでインストールされた Cisco Jabber CSF クライアントを構成する方法を示しています。

```
!  
voice register dn 1  
  number 991001  
  name Jabber-CSF-Client-1  
  label Jabber-CSF-Client-1  
!  
voice register pool 1  
  id device-id-name jabber_csf_1  
  type Jabber-CSF-Client  
  number 1 dn 1  
  username john password john123  
  codec g711ulaw  
  camera  
  video  
!  
ip http secure-server  
ip http secure-port 8443
```

次の例は、音声登録グローバルで Cisco Mobility Express から電話専用モードで Cisco Jabber CSF クライアントを構成する方法を示しています。

```
voice register global
  phone-mode phone-only
!
voice register pool 1
  id device-id-name winJabber
  number 1 dn 1
  type Jabber-CSF-Client
  username 1111022 password 1111022
!
```

次の例は、音声登録プールで Cisco Mobility Express から電話専用モードで Cisco Jabber CSF クライアントを構成する方法を示しています。

```
voice register pool 1
  id device-id-name winJabber
  number 1 dn 1
  type Jabber-CSF-Client
  username 1111022 password 1111022
  phone-mode phone-only
!
```

次の例は、音声登録テンプレートで Cisco Mobility Express から電話専用モードで Cisco Jabber CSF クライアントを構成する方法を示しています。

```
voice register template 1
  phone-mode phone-only
!
voice register pool 2
  id device-id-name winJabber
  type Jabber-CSF-Client
  number 1 dn 2
  username 1111023 password 1111023
  template 1
!
```

Cisco Jabber CSF クライアント（バージョン 12.1.0 以降）のサポートでは、Unified Cisco Mobility Express 12.5 が DNS サーバーとして構成されています。Jabber クライアントのホストマシンは、DNS サーバーとして構成されている Unified Cisco Mobility Express を指すように構成されています。次の例は、Unified Cisco Mobility Express 12.5 以降のバージョンを DNS サーバーとして構成して、Mac および Windows 用の Cisco Jabber CSF クライアント、バージョン 12.1.0（電話専用モード）をサポートする方法を示しています。

```
enable
configure terminal
ip dns server
ip host _sip_tcp.cisco.com srv 0 1 5060 cme.cisco.com
ip host _sip_udp.cisco.com srv 0 1 5060 cme.cisco.com
ip host _sips_tcp.cisco.com srv 0 1 5060 cme.cisco.com
ip host _cisco-uds._tcp.cisco.com srv 0 1 8443 cme.cisco.com
ip host uds._tcp.cisco.com srv 0 1 8443 cme.cisco.com
ip host _collab-edge._tls.cisco.com srv 0 1 8443 cme.cisco.com
ip host cme.cisco.com 10.64.86.106 (Note: IP Address of Unified CME 12.5)
ip host _cisco-phone-http.tcp.cisco.com srv 0 1 8443 cme.cisco.com
```

Cisco ソフトフォン SIP クライアント向けダイヤルルールの構成例

次の例では、音声レジスタ テンプレート 2 で設定されるダイヤルルールを示します。

```
!
voice register template 2
  url ldapServer ldap.abcd.com
  url AppDialRule tftp://10.1.1.1/AppDialRules.xml
  url DirLookupRule tftp://10.1.1.1/DirLookupRules.xml
!
```

次に、アプリケーションダイヤルルールの内容例を示します。

```
Router#more flash:AppDialRules.xml
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><DialRules<
  <DialRule BeginsWith="+1" NumDigits="12" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="+1" NumDigits="12" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="919" NumDigits="10" DigitsToRemove="3" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="1" NumDigits="11" DigitsToRemove="0" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="" NumDigits="10" DigitsToRemove="0" PrefixWith="91"/>
  <DialRule BeginsWith="" NumDigits="7" DigitsToRemove="0" PrefixWith="9"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="13" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="14" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="15" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>

  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="12" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
  <DialRule BeginsWith="+" NumDigits="11" DigitsToRemove="1" PrefixWith="9011"/>
</DialRules>
```

Cisco Unified SIP IP 電話機からローカルサービスを除外する例

次の例では、**exclude** コマンドを使用して、Cisco Unified SIP IP Phone のユーザーインターフェイスから2つのローカルサービスを除外する方法を示します。これらのサービスとは、ローカルディレクトリと電話アプリケーションです。

```
Router(config)# voice register pool 80
Router(config-register-pool)# exclude directory
Router(config-register-pool)# exclude myphoneapps
```

ephone-dn のテキストラベルの作成例

次の例では、2つの ephone-dn のテキストラベルを作成します。

```
ephone-dn 1
  number 2001
  label Sales
ephone-dn 2
  number 2002
  label Engineering
```

電話機のヘッダーバー表示例

次の例では、電話機のヘッダーバーに、電話回線の完全な E.164 番号を表示します。

```
ephone-dn 55
  number 2149
  description 408-555-0149
ephone-dn 56
  number 2150
ephone 12
  button 1:55 2:56
```

システムテキストメッセージの表示例

次の例では、IP Phone が使用されていないときに表示されるテキストを指定します。

```
telephony-service
  system message ABC Company
```

システムファイルの表示例

次の例では、IP Phone が使用されていないときに、logo.htm というファイルを表示するように指定します。

```
telephony-service
  url idle http://www.abcwrecking.com/public/logo.htm idle-timeout 35
```

ディレクトリ、サービスおよびメッセージボタンの URL プロビジョニング例

次の例では、ディレクトリ、サービス、およびメッセージボタンをプロビジョニングします。

```
telephony-service
  url directories http://10.4.212.4/localdirectory
  url services http://10.4.212.4/CCMUser/123456/urltest.html
  url messages http://10.4.212.4/Voicemail/MessageSummary.asp
```

プログラム可能な VendorConfig パラメータの例

次に示す出力の一部は、プログラム可能な電話および表示機能のパラメータが **service phone** コマンドで構成されているテンプレートを示しています。

```
ephone-template 1
  button-layout 7931 1
  service phone daysDisplayNotActive 1,2,3,4,5,6,7
  service phone backlightOnTime 07:30
  service phone backlightOnDuration 10:00
```



```
service phone backlightidleTimeout 00.01
```

この例で、電話機26および27のPCポートは無効になります。その他のすべての電話機では、PCポートは有効になります。

```
ephone-template 8
  service phone pcPort 1
  !
  !
ephone 26
  mac-address 1111.1111.1001
  ephone-template 8
  type 7960
  button 1:26
  !
  !
ephone 27
  mac-address 1111.2222.2002
  ephone-template 8
  type 7960
  button 1:27
```

Cisco Unified Cisco Mobility Express の Cisco Unified Wireless IP Phone の Push-to-Talk (PTT) の例

次の一部の出力は、**service phone thumbButton1** コマンドを使用した One-Way PTT のテンプレートを示しています。

```
ephone-template 12
  service phone thumbButton1 PTH6
  !
  !
  ephone-dn 10
  intercom 1050
  ephone-dn 50
  number 1050
  paging
  !
  !

ephone 1
  type 7921
  button 1:1 6:10
  !
  !
ephone 2
  button 1:2
  paging-dn 50
  ephone 3
  button 1:3
  paging-dn 50
  ephone 4
  button 1:1
  paging-dn 50
```

Cisco Unified IP Phone オプションの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 2: Cisco Unified IP Phone オプションの機能情報

機能名	Unified Cisco Mobility Express バージョン	機能情報
Cisco Jabber のサポート	12.5	Cisco Jabber CSF クライアント MAC および Windows (電話のみ)、バージョン 12.1(0) のサポートが追加されました。
	8.6	Cisco Jabber のサポートが追加されました。
Cisco Unified SIP IP Phone の電話アプリケーション	9.0	Cisco Unified SIP IP Phone で、電話アプリケーション機能のサポートが追加されました。
ディレクトリ エントリのクリア	8.6	Cisco Unified SCCP IP Phone のディスプレイ画面に表示される不在着信、発信、着信通話エントリなど、電話履歴詳細の表示をクリアする機能が提供されました。
回線ボタンと機能ボタン	4.0(2)	Cisco Unified IP Phone 7931G をプロビジョニングする、事前定義された 2 つの機能ボタンの固定セットが提供されました。

機能名	Unified Cisco Mobility Express バージョン	機能情報
ヘッダー バーの表示	3.4	SIP 電話機のヘッダーバーの表示を変更する機能のサポートが追加されました。
	2.01	電話機のヘッダーバーの表示が導入されました。
ディレクトリ番号のラベル	3.4	SIP 電話機でのラベル表示のサポートが追加されました。
	3.0	ephone-dn ラベルが導入されました。
プログラム可能なベンダーパラメータ	4.0	SCCP 電話機で、プログラム可能な電話および表示機能を電話機レベルで設定する機能のサポートが追加されました。
	3.4	SIP 電話機で、プログラム可能な電話および表示機能を設定する機能のサポートが追加されました。
	3.2.1	構成ファイルの vendorConfig 部分による、プログラム可能な電話および表示機能のサポートが追加されました。設定の実装は、ファームウェアのバージョンに依存します。

機能名	Unified Cisco Mobility Express バージョン	機能情報
システム メッセージの表示	3.0	テキストメッセージを使用して、アイドル状態の電話機にシステムメッセージを表示する機能が導入されました。
	2.1	HTML ファイルを使用して、アイドル状態の電話機にシステムメッセージを表示する機能が導入されました。
機能ボタンの URL プロビジョニング	12.0	SIP 電話でのアイドル URL 機能のサポートが追加されました。
	4.2	サービス機能ボタン電話に複数の URL をプロビジョニングする ephone テンプレート設定のサポートが追加されました。
	3.4	サポート対象の SIP 電話機のプログラム可能な機能ボタンに、カスタマイズされた URL をプロビジョニングする機能のサポートが追加されました。
	2.0	プログラム可能な機能ボタンに、カスタマイズされた URL をプロビジョニングする機能が導入されました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。